

知財業務における AI エージェントの実力比較：Manus vs Perplexity Computer vs Claude Cowork

作成者：Manus AI 作成日：2026 年 4 月 25 日

1. はじめに

グローバル市場における技術覇権競争の激化とイノベーションサイクルの短縮に伴い、企業の知的財産（IP）部門はかつてない運用上の圧力に直面しています。特許出願件数の増大、技術領域の複雑化、そして権利化までのリードタイム短縮が経営層から強く求められる一方で、知財専門人材の不足と外注費用の高騰は慢性的な構造課題となっています [1]。

このような背景のもと、2025 年から 2026 年にかけての人工知能（AI）技術の進化は、知財業務のあり方を根本から再定義する転換点をもたらしました。従来の AI 技術が「人間の問いに応答する対話型アシスタント」にとどまっていたのに対し、現在の最新アーキテクチャは、複雑なマルチステップのタスクを自律的に遂行する「AI エージェント」へと劇的な進化を遂げています [1]。

本レポートでは、最先端の自律型 AI エージェントである「Manus」、マルチモデル統合型の「Perplexity Computer」、そしてエンタープライズ向けデスクトップエージェント「Claude Cowork」の 3 つのツールについて、知財業務（特許調査・出願・権利化・侵害分析など）における実力を多角的に比較分析し、実務者向けの導入最適解を提示します。

2. 比較対象ツールの基本プロフィール（2026 年 4 月現在）

各ツールは異なる設計思想とアーキテクチャに基づいており、知財業務への適用においてもそれぞれ独自の強みと限界を持っています。

| 比較項目 | Manus | Perplexity Computer | Claude Cowork |
|--------|---------------------------------|---|--------------------------------|
| カテゴリ | 汎用自律型 AI エージェント | マルチモデル汎用 AI エージェント | エンタープライズ向けデスクトップ AI エージェント |
| 提供元 | Monica (中国系スタートアップ) | Perplexity AI (米国) | Anthropic (米国) |
| 基盤モデル | Claude Sonnet 3.7 等の複数モデル | Claude Opus 4.6, GPT-5.2, Gemini 等 19 モデル協調 | Claude Sonnet 4.5 / Opus 4.6 |
| 価格体系 | Standard \$20/月 (4,000 クレジット) ~ | Max \$200/月 (10,000 クレジット) ~ | Pro \$20/月~, Team \$25/seat/月~ |
| 主な特徴 | 自律的タスク実行、非同期処理、ブラウザ操作 | Perplexity Patents、Deep Research、Comet ブラウザ | 法律プラグイン、Word 統合、MCP 対応 |
| セキュリティ | 機密情報取扱いに懸念あり (SOC2 未対応) | Enterprise Max で組織レベルセキュリティ | 最高水準 (AWS 経由デプロイ可、学習不使用) |
| 日本語対応 | 対応 (特許専門用語の精度は不安定) | 対応 (特許日本語の専門性は限定的) | 対応 (特許日本語コミュニティが充実) |

2.1 Manus : 自律的な「アクションエンジン」

Manus は、単にユーザーのプロンプトに回答するチャットボットではなく、タスクを実行し、ワークフローを自動化する「アクションエンジン」として設計されています [1]。人間の継続的な指示なしにウェブブラウジング、コード実行、ファイル整理といった一連の作業を独立して完了させる能力を持ちます。知財部門の広範なリサーチ業務において、指定した技術分野の特許出願動向を分析し、レポートを自動生成するといった高度なタスク実行能力を備えています。

2.2 Perplexity Computer : 19 モデルのオーケストレーション

2026 年 2 月にローンチされた Perplexity Computer は、19 の異なる AI モデルを協調させて複雑なワークフローを自律的に処理するクラウドベースの AI エージェントです [2]。特筆すべきは、2025 年 10 月に発表された「Perplexity Patents」機能であり、

自然言語による特許検索を可能にしています [3]。従来のキーワード検索では見落としがちな概念的な類似特許を発見する能力に長けています。

2.3 Claude Cowork：法務・知財ワークフローへの直接介入

Anthropic が提供する Claude Cowork は、2026 年 2 月に専門的な「法律プラグイン」を展開し、法務・知財市場に大きな衝撃を与えました [4]。このシステムは単にテキストを起案するだけでなく、外部データベースと対話し、引用を検証し、文書レビューを自律的に実行するように設計されています。さらに 2026 年 4 月には、大手法律事務所 Freshfields との共同開発契約を発表し、実務に即した AI 法務ツールの構築を加速させています [5]。

3. 知財業務の主要タスク別能力評価

知財実務における主要なタスクごとに、各ツールの能力を 5 段階評価（★1～5）で比較分析します。

3.1 先行技術調査（Prior Art Search）

先行技術調査は、発明の新規性・進歩性を判断するための根幹となる業務です。

| ツール | 評価 | 強み | 限界・課題 |
|---------------|-------|-------------------------------|-------------------------------------|
| Manus | ★★★★☆ | 複数ソースの自律的ブラウジングと横断的収集 | 認証が必要な DB へのアクセス不安定、ハルシネーションによる番号誤り |
| Perplexity | ★★★★☆ | 自然言語による概念検索、非特許文献（NPL）の広範な探索 | 特許 DB への直接アクセスなし、クレームレベルの分析不可 |
| Claude Cowork | ★★★★☆ | 法律プラグイン経由の外部 DB 連携、クレームチャート作成 | 単体での特許 DB 直接アクセスには設定（MCP 等）が必要 |

分析：Perplexity Patents は「フィットネストラッカー」という検索に対して「アクティビティバンド」や「健康モニタリングウェアラブル」といった概念的に類似する特許を発見する能力に優れており、初期段階の調査に有効です [3]。しかし、エン

タープライズ R&D チームが求めるような、特許番号やクレームレベルの詳細な分析、そして情報源の検証可能性 (Verifiability) という点では、専用の知財データベースには及びません [6]。Claude Cowork は、外部データベースとの連携を設定することで、最も実務に近い精度の高い調査が可能となります。

3.2 特許明細書作成 (Patent Drafting)

特許明細書の作成は、高度な技術理解と厳密な法的要件の充足が求められる専門業務です。

| ツール | 評価 | 強み | 限界・課題 |
|---------------|-------|-------------------------|-----------------------------|
| Manus | ★★☆☆☆ | 発明概要からの骨格生成、図面説明文の自動生成 | 法的・技術的精度の不足、クレーム構造設計の専門知識欠如 |
| Perplexity | ★★☆☆☆ | 技術文書の構造化、関連先行技術の収集・要約 | 特許明細書の法的要件 (記載要件等) への対応が不十分 |
| Claude Cowork | ★★★★☆ | 長文脈処理による一貫した作成、記載要件チェック | 日本語特許の専門用語への対応はプロンプト設計に依存 |

分析: 特許明細書の作成において、汎用 AI エージェント (Manus、Perplexity) は技術背景の整理や初期ドラフトの作成には役立ちますが、最終的な権利化プロセスに耐える法的正確性を担保することは困難です [1]。一方、Claude Cowork は 200K トークンの長文脈処理能力を活かし、発明開示書からクレームドラフト、明細書全文に至るまでの一貫した処理が可能です。また、Microsoft Word との統合 (LexHub Word Plugin 等) により、既存のドラフティングワークフローにシームレスに組み込むことができます [7]。

3.3 拒絶理由対応 (Office Action Response)

審査官からの拒絶理由通知に対する分析と応答方針の立案タスクです。

| ツール | 評価 | 強み | 限界・課題 |
|---------------|-------|-----------------------------|--------------------------------|
| Manus | ★★☆☆☆ | 拒絶理由通知書の要約、引用文献の概要把握 | 審査基準への深い理解不足、補正案の適切な設計が困難 |
| Perplexity | ★★☆☆☆ | 引用文献の検索・要約、類似審決・判例の調査 | 審査実務への対応不十分、法的論述の専門知識欠如 |
| Claude Cowork | ★★★★☆ | 拒絶理由分析から意見書起案までの一連のワークフロー支援 | 日本の審査実務（進歩性判断の論理構成等）への適応に工夫が必要 |

分析：拒絶理由対応では、クレームの変遷履歴と引用文献を同時に分析する能力が求められます。Claude Cowork は、その長文脈処理能力と法律プラグインによる審査基準・判例の参照機能を組み合わせることで、補正案の提案から意見書の起案までを強力に支援します。ただし、いずれのツールを使用する場合でも、最終的な判断と法的論述の構築には弁理士による専門的なレビューが不可欠です。

3.4 特許侵害分析・FTO 調査 (Infringement Analysis / FTO)

自社製品が他社特許を侵害していないかを確認する、極めて機密性の高い業務です。

| ツール | 評価 | 強み | 限界・課題 |
|---------------|-------|-----------------------------|-----------------------------|
| Manus | ★★☆☆☆ | 公開情報からの競合製品仕様収集、対比表骨格作成 | クレーム解釈の専門知識不足、機密情報の入力リスク |
| Perplexity | ★★☆☆☆ | 競合他社の製品・特許情報の収集・要約 | クレームレベルの分析不可、体系的な特許 DB 検索不可 |
| Claude Cowork | ★★★★☆ | クレームチャート作成、侵害論点の整理、高いセキュリティ | 最終的な侵害判断は専門家レビュー必須 |

分析：FTO 調査において最も重要なのは「セキュリティと機密性」です。検索クエリ自体が自社の戦略的意図（未公開の新規プロジェクト等）を露呈するリスクがあるためです [6]。Manus や消費者向けの Perplexity は、この点でエンタープライズ R&D 部門の要件を満たしません [1] [6]。Claude Cowork（エンタープライズプラン）

は、AWS Bedrock 等を経由したセキュアなデプロイと API データの学習不使用ポリシーを備えており、機密性の高い侵害分析に唯一耐えうる選択肢となります [1]。

3.5 IP ランドスケープ・競合特許分析 (Patent Landscape)

技術動向と特許情報を統合的に分析し、経営戦略に資するインテリジェンスを抽出する業務です。

| ツール | 評価 | 強み | 限界・課題 |
|---------------|-------|----------------------------------|-------------------------------|
| Manus | ★★★★☆ | 複数情報源からの自律的収集、スライドデッキ形式のレポート生成 | 体系的な特許分類に基づく網羅的調査に限界、コスト変動リスク |
| Perplexity | ★★★★☆ | Deep Research による広範な技術・市場動向の統合調査 | 権利者ポートフォリオの体系的分析不可、ソース品質の混在 |
| Claude Cowork | ★★★★☆ | 大量文献の一括分析、構造化レポートの作成 | 視覚的な特許マップ作成には追加ツールが必要 |

分析： IP ランドスケープにおいては、特許情報だけでなく市場動向や商業的タイムラインの把握も重要です。Perplexity Computer の Deep Research 機能は、ニュースやプレスリリースを含むオープンウェブからの情報収集に優れており、商業的なコンテキストの把握に強みを発揮します [6]。一方、Manus は「指定した技術分野における過去 10 年間の主要競合 3 社の特許出願動向を分析し、レポートをスライドデッキ形式で作成せよ」といった高レベルの指示に対して、自律的に計画を立案し最終成果物を生成する能力を持っています [1]。ただし、Manus は従量課金制を採用しているため、大規模な調査を無計画に実行させると予算を大幅に超過するリスク（約 30 分の処理で約 10 ドル等）がある点に注意が必要です [1]。

4. 導入に伴うリスクと限界

AI エージェントを知財業務に導入するにあたっては、以下の構造的なリスクと限界を理解しておく必要があります。

4.1 セキュリティとデータプライバシーの壁

知財業務、特に未公開発明の取り扱いや FTO 調査においては、情報漏洩リスクの管理が最優先されます。Manus は中国系企業が提供しており、現時点（2026年4月）で SOC2 認証等のエンタープライズ向けセキュリティ基準を十分に満たしていないため、機密性の高い知財情報の入力には推奨されません [1]。Perplexity も基本的には消費者向けアーキテクチャであり、Enterprise Max プランでのみ組織レベルのセキュリティが提供されます [2] [6]。

4.2 コストの予測不可能性（メーター制の罠）

Manus や Perplexity Computer（クレジット制）のような自律型エージェントは、タスクを分解し並列処理を実行する過程で想定以上のリソースを消費するケースがあります。特に Manus では、複雑な多段階の調査ジョブを依頼した場合、予測不能なコスト増加（ハルシネーションによる無限ループ等）が発生するリスクが実証データとして報告されています [1]。

4.3 ソース品質と検証可能性（Verifiability）

Perplexity はオープンウェブ全体から情報を収集するため、査読付き論文や特許公報と、企業のプレスリリースやブログ記事が同等の重みで引用される傾向があります [6]。R&D の投資決定を左右するような厳密な技術評価においては、この「ソース品質の混在」が致命的な判断ミスを招く恐れがあります。

"For R&D teams building business cases for multimillion-dollar research investments, this traceability is not optional. It is the difference between a recommendation and a defensible recommendation."（数百万ドル規模の研究投資のビジネスケースを構築する R&D チームにとって、この追跡可能性はオプションではありません。それは「単なる推奨」と「防御可能な推奨」の違いなのです。） [6]

5. 結論と実務者への推奨戦略

2026年現在の AI エージェント市場において、知財業務に「完璧に適合する単一のツール」は存在しません。各ツールの特性を理解し、業務の性質（機密性、法的厳密性、探索の広さ）に応じて使い分ける「適材適所」の戦略が不可欠です。

- 1 **Claude Cowork (エンタープライズ版) を中核に据える** 特許明細書の作成、拒絶理由対応、FTO 調査、契約書レビューといった「法的厳密性」と「高い機密性」が求められるコア知財業務においては、Claude Cowork が最も現実的かつ強力な選択肢です。法律プラグインの活用と、自社データ環境でのセキュアな運用 (BYOM: Bring Your Own Model) により、実務に直結する価値を生み出します [4]。
- 2 **Perplexity Computer を「広範なインテリジェンス収集」に活用する** 特許情報に限定されない技術動向の把握、競合他社の市場戦略の調査、あるいは未知の技術分野に関する初期サーベイにおいては、Perplexity の Deep Research 機能と Perplexity Patents の組み合わせが威力を発揮します。ただし、機密情報を含まない検索クエリに限定して使用すべきです。
- 3 **Manus は「非機密の定型リサーチ自動化」に限定する** Manus の自律的なタスク実行能力は魅力的ですが、セキュリティ懸念とコスト変動リスクを考慮すると、現時点では「公開情報に基づく競合他社の定期モニタリング」や「大量の公開文献の要約」といった、機密性が低く、かつ人間が手作業で行うには時間がかかりすぎる業務に限定して活用するのが賢明です。

知財部門が真の ROI (投資対効果) を創出するためには、これらの汎用 AI エージェントの導入と並行して、Patentfield AIR や Genzo AI といった「日本の知財実務に特化した専用ツール」とのハイブリッド運用を検討することが、最も確実な戦略と言えるでしょう [1]。

References

- [1] Yorozu IP Strategic Consulting. "2026 年における知財部門業務の AI 駆動型効率化・高度化：Manus、Claude Code、および知財特化型ツールの戦略的比較と導入最適化". yorozuipsc.com.
- [2] SentiSight.ai. "Perplexity Computer Cost: Pricing, Credits & Plans (2026)". sentisight.ai.
- [3] Perplexity AI. "Introducing Perplexity Patents: AI-Powered Patent Search for Everyone". perplexity.ai.
- [4] Patenty.ai. "The Foundation Model Pivot: Anthropic's Direct Entry into Legal Workflows and the Disintermediation of the 'Middle Layer'". patenty.ai.
- [5] Reuters. "Anthropic, law firm Freshfields to jointly develop AI legal tools". reuters.com.
- [6] Cypris. "Cypris vs. Perplexity for R&D Research: An Honest Comparison for Enterprise

Teams in 2026". cypris.ai.

[7] LinkedIn (asaraswat). "Anthropic's Claude in Microsoft Word for Legal Contract Review". linkedin.com.